

# 守り継がれる鎮守

## 星宮神社(宮和田区)の大改修 匠探訪

23

今年の正月も地域にまつられた神社にお参りしたり、行事に参加した市民も多かったことでしょう。

地域の神社は、鎮守神(ちんじゅがみ)、産土神(うぶすながみ)、氏神(うじがみ)などと呼ばれ、そのかたちは多様です。現在、市内には旧八日市場市域に60、旧野栄町域

に6の66社が宗教法人に登録されていますが、登録されていない社も数多くあります。

大浦・宮和田区(匠瑳地区)の星宮(ほしみや)神社改修で新たに発見された記録から地域の神社の移り変わりを見ることにしましょう。

およそ400年前、江戸時代に入るころ現在の大字区域が村として範域が決められ成り立ちました。大浦村もこの時に成立したのですが、集落は以前から堀之内と宮和田に分かれ集落ごとに神社をまつりました。

1200年代に千葉氏が妙見菩薩(みょうけんぼさつ)を守護神(しゅごしん)として当地域にも進出するようになり、大浦氏を名乗る集団が住みつきました。そのなごりで宮和田集落では江戸時代になってもこの社を鎮守神としました。

今回の発見で、1736年(元文元)8月16日に神社本殿が再建され、落慶式が行われたことがわかりました。ご

神体として「妙見大菩薩」がまつられたことで、当時は妙見様とよばれていたのでしょう。関係者名を見ると、蓮花寺住職が導師となり、農家も兼ねていた神主と宝泉院住職も名を連ね、寺院と神社が一体となった「神仏習合(しんぶつしゅうごう)」の様子が見られます。

1846年の修理の際には、氏子40軒の名字氏名が記され共同体としてのまとまりが感じられます。

明治初年の神仏分離で妙見大菩薩から星宮大神と名称を変え、同30年代には「星宮神社」となりました。同27年から8年間、毎年陰暦3月15日に「天下泰平」「五穀成就」を祈って神楽(かぐら)が奉納されました。

大浦氏の守護神から宮和田区の鎮守神に、そして神仏分離を経て現在に至っています。

今回の記録発見により、集落の鎮守が時代の変化の中で守り継がれた足跡がわかりました。

星宮神社の平成の大改修は、「鎮守が現代社会においても脈々と引き継がれる」ことを再認識することになりました。  
問八日市場図書館 ☎ 3746



星宮神社の拝殿新造と本殿の大改修を成し得た宮和田区の皆さん(宮和田区提供)